

知床世界自然遺産地域保全事業 (2017年1月～3月)

(1) 多様に富むしれとこの森を復元する事業

100平方メートル運動地各地の巡視を週1回ほどのペースで行いました。この冬は暴風雪など特に荒れた日がほとんどなく、その結果、各防鹿柵などに大きな異状は見られませんでした。

過去に植栽したアカエゾマツ造林地にて今後の作業準備として現地測量や支障となる枝の除去などを行いました。これらの作業はたくさんのボランティアの皆さんにお手伝いをいただきました。



この秋に補修した岩尾別川沿いの防鹿柵(1月)



雪解けが始まった同地の様子(3月)



アカエゾマツ造林地の枝除去作業(2月)



作業に参加したボランティアの皆さん(2月)

(2) 世界遺産の価値を守り、伝える事業

1. 次世代へ知床の森をつなぐ活動

2月に駿河台大学の野外実習を企画・実施しました。学生8名を対象に100平方メートル運動地についての概要説明と樹皮保護ネットの巻き直し作業を行いました。

3月には知床自然愛護少年団の100平方メートル運動地体験学習の引率を行いました。運動地内には開拓当時、馬小屋として使われ、平成9年の改修後は「開拓小屋」という名称で保存され

ている建造物があります。子供たちが開拓当時さながら？の電気もない「開拓小屋」を拠点に過ごす 1 泊 2 日のプログラムです。

知床自然センターの来館者に知床の自然や歴史、100 平方メートル運動を伝えるレクチャーを引き続き実施しました。



ゼミ実習(駿河台大)での樹皮保護ネット巻き(2月)



スノーシューを履いて開拓小屋を目指す
知床自然愛護少年団員たち(3月)



キャンプ道具も自分たちで運ぶ(3月)



スノーシューはダイキンロゴマーク入り



雪上スラックライン！
これなら転んでも痛くない？(3月)



開拓小屋に 1 泊した子どもたち(3月)

地元の子どもたちに知床の自然をより深く楽しんでもらえるよう、子供用 40 足、大人用(引率者用)10 足、合わせて 50 足のスノーシューを購入しました。この冬は、知床の自然や郷土学習を行っている知床キッズ(羅臼町)と上述した知床自然愛護少年団(斜里町ウトロ)の活動でそれぞれ

使っていただきました。

2. ヒグマと人の共存を手助けする活動への支援

昨年の 12 月までに積雪による破損を防ぐために撤去していた電気柵ですが、今年は昨年以上に雪が少ないため、いつもより早くヒグマが冬眠から覚めることが予想されます。日当たりの良い斜面ではすでに電気柵が一部露出していますが、大部分はまだ雪の下です。

ヒグマの活動はまだ羅臼では確認されていませんが、雪が解けきればいつでも再設置に取り掛かれるよう、作業道具の点検や必要部品の在庫確認などを随時行っています。



雪から顔を出した電柵。
もうすぐ出番です（3月）

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。